

1420 堆積平野・堆積盆地における地震災害発生機構の解明

担当者 三宅弘恵

・実施機関（代表機関）名

東京大学地震研究所

・研究目的

本研究課題は、次期研究計画の3.「地震・火山噴火の災害誘因予測のための研究」において、地震・火山噴火による災害誘因（地震動など）の自然素因への作用（堆積平野・堆積盆地における地震動の増幅など）を研究し、災害発生機構を解明する。特に、社会的影響の大きな首都圏などの大都市圏で想定される地震災害に関する研究を、重点的に推し進める。

堆積平野や堆積盆地は、堆積層が誘因（地震動）を増幅するため地震災害の自然素因を有するだけでなく、大規模な平地が存在するため人口稠密となっていることが多く、その結果、社会素因も有する地域である。従って、地震災害発生機構の素因と誘因を研究する重要性が高く、かつ有用な研究データを提供できる地域である。

そこで、国内では首都圏に位置する関東平野等を、海外ではネパール・カトマンズ盆地等を研究対象として、両者の自然素因や社会素因を比較検討しながら、防災・減災に資する地震動研究の新たな地下構造モデルを構築する。その際、両者の自然素因・社会素因の違いを確認した上で、その違いを克服するモデル構築を行うことにより、世界共通のモデルを目指す。